



京都社会人大学校

北近畿校通信

第59号 2024年12月

北近畿校運営委員会

事務局発行

☎080-2511-1751

今年度の講座はいかがでしたか？

2024年の講座もそれぞれ最終回となりました。講座の中身はいかがでしたでしょうか。「知ってよかった」「ちょっと難しいくらいが刺激！」と喜んでくださった方が多いと嬉しいです。「思っていた内容とはちょっと違っていた」方もあったかもしれません。運営の面ではご不便をおかけしたこともあったかもしれませんが、今月の全講座が事故なく終了するまでがんばります。

いろんな感想・要望をいただき、今後の計画に活かしていきたいと思います。今月の講座の「ひとこと感想」には、1年間を通しての感想も書いていただいたらうれしいです。



2025年も同じ6講座で開講します ぜひ引き続き受講を

来年度の開講の中身がだいたい固まってきました。新年早々には募集パンフレットを送れるよう作業中です。ぜひお友達も誘って、引き続き受講してください。

通信費はじめ諸費用が値上がり、受講料も若干の値上げをせざるを得ません。物価高騰の折り大変申し訳ありませんが、ご理解いただきますよう、お願いいたします。

ひとこと感想から

「私がこの大学に学ぶ事によって、孫たちにスイッチが入りみんなが勉強に励むようになりました。これからも学びたいと思いますが、無理かも？ 83才」－漢字学講座の受講生のひとこと感想に書かれていました。いくつになっても学ぶことは楽しい！と家庭でお話され、家族に応援されている様子がうかがえます。おじいちゃんかおばあちゃんかわかりませんが、これからもぜひ受講続けてくださいね！

インフルエンザ・コロナが流行っているようです。体調に気を付け、よい年末年始をお過ごしください。



11月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも
あります。ご了承ください)

◆時事問題講座 11月5日

「日本経済の現状と課題」 講師:古川 彰氏

今回は、受講生の皆さんへのアンケートで最も希望の多かった経済の話。

講師の古川名誉教授は、経済企画庁(現内閣府)や外交官としてワシントンの日本大使館での勤務経験もあるということで、経済を政府組織の内側からみた話もあり興味深いものでした。

はじめに、今の日本経済の状況と世界の評価はどうなのか。そして、日本経済を高度成長期までさかのぼり、その後のバブル期とその崩壊後の停滞などを、その原因・特徴、日本政府はその時どう対応したのか、具体的なデータを読み解きながら話は進みました。

ただ、やはり専門的な用語や聞きなれない言葉も出てきたこと、实体经济から金融経済まで幅広く盛りだくさんの内容だったので、ちょっと難しいな…と感じられた方もあったようです。普段から経済ニュースや記事にも目を通して親しんでおくことが必要だと思いました。最後は「経済政策に万能薬はない」という言葉で締めくくられました。やはり経済を適正にコントロールするのはなかなか難しいようです。



複雑な経済。歴史的に見てという形式で、少し理解ができました。

申し訳ないが、あまり理解できなかった。テーマの幅が広すぎて、時間的に無理があったのでは？

先生も言われたが、半期で教えることを1時間半では難しいとのこと、是非、連続講座を開催してほしい。「経済」は難しいが、私たちの生活とのかかわりで、さらに学びたいです。



◆寄席芸鑑賞講座 11月14日

「寄席についてのお話」 講師:林家染雀氏

講師として林家染雀さんをお迎えしました。今回の講義では、これまでに何度か学んだ寄席について、さらに深く掘り下げて解説していただき、大変有意義な時間を過ごしました。来月の講座では、新開地喜楽館で落語を鑑賞する予定です。そのため、事前に喜楽館や周辺の情報についても詳しく教えていただきました。こうした予備知識を得たことで、より充実した鑑賞体験ができると期待しています。

講義の後半では、忠臣蔵の一場面を題材とした落語を披露していただきました。このようなテーマを扱った落語があるとは知らず、とても新鮮な気持ちで拝聴しました。その格調の高さと品位に圧倒される一方で、分かりやすい表現と臨場感あふれる語り口に引き込まれ、あっという間に物語の世界へ没入しました。

笑い感動を兼ね備えたこの落語は、まさに「これぞ落語」と言える内容で、私の落語に対する見方が大きく変わる体験となりました。心を深く動かされるとともに、改めて落語という芸能の奥深さに感銘を受けました。

今回の講座は、学びと感動を同時に得られる貴重な機会となり、心から満足しています。

凄い！こんな落語もあるんですね。まるでお芝居を見ている様でした。内容も素晴らしかったです。しばらく余韻にひたっております。

始めの話から最後の落語まで、凄い熱量で、いろんな知識を伝えて頂き、お話を聞き入りました。

今日聞いたことは、何も知りませんでした。しっかり学んだので、来月の寄席を楽しみたいです。

◆写真講座 10月15日

「愛くるしいまなざし」—ペットの撮影—

講師：四方智基氏

秋晴れの日となればよかったです、北部特有のこの時期の晴れたりしぐれたりのお天気。3匹のワンコモデルは寒さに耐えられるのか少し心配しました。撮影会に先立ち、いつものように「今日の撮影のポイント」講義。動く動物はシャッタースピードの設定が大事。小型犬なら木箱やかごなどに入れて落ち着く状況を作る。音を出すなどしてカメラの方向に顔を向けさせる…など。撮影に外へ出ると雨は上がり、落ち葉もいい雰囲気。大勢のカメラマンにテンションが上がり？ぐるぐる駆け回ったり、椅子に座ってポーズ？とったりと、それぞれのワンコの個性が出て、楽しい撮影会となりました。時折シャーっとしぐれたり、しばらくすると陽がさしたりと、カメラ設定はちょっと忙しかったかもしれません。



動くので構図とかむずかかった。

犬好き＆写真好きにはたまらない2時間でした！

毎回楽しい講座でした。これから、カメラ担いで出かけたいと思っています。



◆歴史講座 11月20日

「綾部の歴史 ～古墳時代の装飾品について～」

講師：西村謙太氏

講義は綾部の古墳について前期、中期、後期に分けての概要の説明から始まりました。

その後、古墳から出土した装飾品について、勾玉、管玉などの種類ごとの解説、時代とともに変化していく特徴などについて丁寧な説明がありました。

私市円山古墳からは刀などの武具のほか、玉類などの多くの装飾品が出土しています。ただし、製作途中の装飾品や製作に使った道具類の出土が全くないので、他の地域から持ち込まれたと考えられるとのこと。

まだ不明な点も多く、綾部への流入が地域間の交流によるものなのか、支配関係の上位にあるものから与えられたのか、あるいは円山古墳を築いた権力者が綾部で誕生したのではなく、大きな力を持った者が他地域から移ってきた時に持ってきたのか…など。

今後の研究で何が分かってくるのか、興味がつきない内容でした。

綾部に古墳があるのを初めて知った。私市円山古墳に行ってみよう。地道な時間のかかる研究頑張ってください。

玉について詳しい話が伺えてよかったです。これまで博物館で玉を見てもよくわからなかったのですが、古代の歴史を解き明かしていくうえで大切な役割を果たしていることがわかりました。これから見学するときに、今日の話を出したいです。

身近な綾部の歴史なので関心があり、私市円山古墳を見に行こうと思う。



◆北近畿探訪講座 11月27日

「SEC カーボン株式会社」訪問

長田野工業団地内の創立90年のSECカーボン株式会社を訪ねました。

前半は研修室で会社や製品の説明をしてもらいました。説明の中で述べられていたように、私たちが日常で目にするものではない炭素（カーボン）に関する『モノ』を作っておられますが、そのモノとは、国の基幹産業である鉄鋼・アルミ製造に関する黒鉛電極などを作っているとのこと。原料から成形・加工までを工場で一貫生産されています。目に見えないところに使われている、というのは、身近なものでは電池の原料や自動車塗料として、また車のタイヤにもここで製造されているファインパウダーという製品が使われています。車のタイヤが黒いのはこのパウダーの黒色によるものだという事です。

後半は工場見学に移りましたが、敷地内には10棟ほどの工場建屋があり、黒鉛電極の製造工場と検査・出荷工場を見学しました。その工場へは徒歩で行くと20分位かかるということで、社で用意してくださった車2台と受講生2台の車で移動となり、本講座初めてのことであり、工業団地内では最大の敷地面積だということが実感できました。工場内は広く大きく、製造設備は自動化されており、少人数の作業員で担っておられました。長田野工業団地内ではテレビのコマーシャル等では知られていない企業が殆どだとは思いますが、これまで探訪させていただいた企業はいずれも中身はすごい企業ばかりです。



初めて長田野の工場見学をしましたが、世界的シェアの高いカーボン工場であることを知り驚きました。丁寧に説明・案内をしていただきよく理解することができました。不良品が産業廃棄物になるとは少しもったいない気がしました。

カーボンってどんなものかよく知らなかったけど、すごく大事な働きをしているものだと知りました。工場見学楽しかったです。

地元にこんな大きな工場があるのは素晴らしいと改めて感激しました。

◆漢字学講座 11月28日

「名乗りの漢字」 講師:久保裕之氏



今日は名前の漢字について…名前と言え、昨今キラキラネームと言うのが話題になるが、近頃の子どもの名前、頭をひねらなければ、ちょっとや、そとでは読めない。こういう現象は、日本だけの様で、原因は固有名詞は、読み方が自由という所にあるらしい。けれど読みにくい名前って、今に始まった事ではなく、古代からも難解な文字が使われている。日本武尊(やまとたけるのみこと)、蘇我蝦夷(そがのえみし)等々。戦国、安土桃山、江戸時代なら、大岡忠相(おおおかただすけ)、伊能忠敬(いのうただたか)。江戸、明治時代の島津齊彬(しまずのりあき)、岩倉具視(いわくらともみ)、森有礼(もりありのり)。大正、昭和に入ると武者小路実篤(むしゃのこうじさねあつ)。平成、令和になると、羽生弦(はにゅうゆずる)、澤穂希(さわほまれ)、八嶋智人(やしまのりと)、など。人名にはその漢字の持つイメージが大きく影響している。明るく輝く、物事を正す、清らか、強い、すなお、優れている等。子どもへの思いが込められている。

しかし、ここ70年程で名前に使える漢字も1149文字も増えているが、いくら固有名詞の読み方が自由だと言っても、「高」と書いて(ひくし)、「太郎」と書いて(じろう)、同じく「太郎」と書いて(マイケル)、「佐藤」と書いて(スズキ)は、紛らわしいから認められないそうですよ。

仕事を続けているため欠席も多く、やむなく振替講座で、色々勉強させていただいています。今日は、名前の漢字で、歴史の勉強のよう。面白かった。知っていることも、知らないことも併せて楽しい。

名前にかかわる漢字、日本は中国などとは違って、雑なのか、ゆるいのか、自由に漢字を使って楽しい。

歴史が好きなので人名の読み方は面白かったですが、なぜ、そう読むのか、わからないまま覚えていて読めるだけでした。蘇我蝦夷を悪人として名を改ざんしたことは興味深いです。戦いに勝っていたら改ざんされなかったでしょう！